

平成 17 年度研究業績

1. 学会発表

・ 学会発表 (日本)

1. 大藏倫博, 中田由夫, 大河原一憲, 沼尾成晴, 片山靖富, 松尾知明, 田中喜代次: 減量中の有酸素性運動が肥満男性の血清ホモシスチン濃度に与える影響—The SMART Study—. 第 26 回日本肥満学会, 札幌, 2005. 10.
2. 中田由夫, 大河原一憲, 沼尾成晴, 大藏倫博, 田中喜代次: 減量介入による体重減少量とその後の体重リバウンド量との関係: The SMART Study. 第 26 回日本肥満学会, 札幌, 2005. 10.
3. 大藏倫博, 中田由夫, 大河原一憲, 沼尾成晴, 片山靖富, 松尾知明, 田中喜代次: 有酸素性運動と食事制限による体重減量が中年肥満男性の血清ホモシスチン濃度に与える影響—The SMART Study—. 第 60 回日本体力医学会, 岡山, 2005. 9.
4. 中田由夫, 大河原一憲, 沼尾成晴, 大藏倫博, 田中喜代次: 減量後 2 年以上経過時における冠リスク保有数の変化: 内臓脂肪蓄積量との関連— The SMART Study—. 第 60 回日本体力医学会, 岡山, 2005. 9.
5. 重松良祐, 大藏倫博: 高齢者の神経筋機能向上を目指したスクエア・ステッピング・エクササイズの実験量と運動強度. 第 60 回日本体力医学会, 岡山, 2005. 9.

・ 学会発表 (海外)

1. Shigematsu R, Okura T: A new exercise for the lower-extremity functional fitness in older adults The 52nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine, Nashville, 2005. 6
2. Nakata Y, Ohkawara K, Numao S, Okura T, Tanaka K: Effects of rebound after weight loss on coronary heart disease risk factors: The SMART Study. The 52nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine, Nashville, 2005. 6

2. 学術論文

1. 和文

1. 田中喜代次, 大藏倫博, 山崎先也: 運動を柱とした高齢者の健康支援. 運動疫学研究, 7: 1-10, 2005.

2. 英文

1. Okura T, Nakata Y, Lee DJ, Ohkawara K, Tanaka K: Effects of aerobic exercise and obesity phenotype on abdominal fat reduction I response to weight loss. International Journal of Obesity, 29: 1259-1266, 2005.

3. その他論文

1. 田中喜代次, 沼尾成晴, 大藏倫博: 内臓脂肪への効果. 高齢社会における運動支援実践ガイド. 臨床スポーツ医学臨時増刊号 vol. 22. 臨床スポーツ医学編集委員会 (編). 文光堂, 288-292, 2005

2. 田中喜代次, 大藏倫博, 山崎先也: 運動を柱とした高齢者の健康支援. 運動疫学研究, 7: 1-10, 2005
3. 田中喜代次, 大藏倫博: 運動と体脂肪. 体力づくり情報トリムジャパン 83: 14-17, 2005

4. 著書

5. その他

1. 大藏倫博: パネリスト「腹部脂肪評価法の歴史と臨床的意義」. 第11回 ボディ・コンポジションと代謝研究会, 2005
2. 大藏倫博: シンポジスト “Weight loss program with exercise training and diet for treating obesity. Benefits of Exercise for Obese Patients”. The 8th Asian Federation Sports Medicine Congress, 2005
3. 大藏倫博: 講師「筑波大学方式のオーダーメイド減量プログラム: 肥満者の健康状態を改善するための最新減量法の紹介」. ヘルスフィットネスジャパン 2005, 2005